

## 2023年度 第62回入学式祝辞 (2023.4.4)

下関市立大学第62回入学式にあたり、法人を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

はじめに、厳しい入学選抜試験を見事に突破され、本学に栄えある入学を果たされた皆さんに、心からお慶び申し上げますとともに、全国各地からの新入生の皆さんを心から歓迎いたします。

振り返りますと、昨年の入学式は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、やむを得ず午前と午後の2回に分けての挙行となり、また、保護者をはじめ関係者の皆様の式への参列も叶いませんでした。ようやく今年度は新入生が一堂に会し、保護者の皆様にも参列いただく形に戻り、互いの顔が見える入学式でスタートできたことを、関係者とともに喜んでいるところであります。

感染防止とはいえ、行動の制限により、人々が多くのストレスを感じ、様々な社会問題に発展したことは、ごく当たり前であった対面での交わりが、いかに大切かを思い知らされることとなりました。その制限も解除され、新入生の皆さんが、やがて始まる対面での講義や学生同士の交流を通して、学びたいこと、身に付けたいこと、体験したいことは何かを見失うことなく、充実したキャンパスライフを送ることを期待しています。しかし、時にその目標を見失って、挫折しそうになることもあるかもしれませんが、その時は焦らず慌てずに、学生支援の窓口にご相談して欲しいと思います。必ずや進むべき道が開けてくると思います。

さて、本学が立地する下関市は、三方が海に開かれ、東アジアに隣接するという地理的優位性を活かし、古くから大陸との往来の要衝として発展し、また関門海峡の恵みによって繁栄してきた山口県下最大の街であります。その下関が学びの地となった機会に、街を探索し、営みに触れ、地域社会を見聞することは、学問を深める上でもとても有益となるので、ぜひ推奨したいと思います。

また、本学は、これまで就職に強い大学として一定の評価を受けてきたという特色があります。この評価は、開学以来67年間、一貫して経済学部としての教育研究を推進し、多くの関係者の努力によって、2万名を超える有為な人材を国内外に送り出してきたという実績に支えられています。

そこで、この評価を更に高め、地域社会への貢献を盤石なものとするため、このたび、開学以来の大願であった、「総合大学化」を目指し、令和6年度に「データサイエンス学部※」、令和7年度には「看護学部※」を設置する準備を進めております。設置が実現した暁には、異なった分野の学問を志す学生の皆さんとの交流により、新たな文化が芽生え、皆さんの学生生活が更に有意義なものとなることを確信しています。

結びに、新入生の皆さんには、改めて充実した学生生活を送られることを強く願い、祝辞とします。

令和5年4月4日

公立大学法人 下関市立大学 理事長 山村 重彰

(※データサイエンス学部については設置認可申請中、看護学部については設置構想中であり、内容に変更が生じる可能性があります。)